

高虎公のくにづくり

～私が生まれ育った
城下・宿屋町～

津市長 前葉 泰幸



「天下に大事ある時は一の先手を高虎」「藤堂家は末代までも伊賀・伊勢から動かしてはならない」と徳川家康が遺言に残すほど信望厚く幕府の重鎮であった藤堂高虎公が安濃津藩の初代藩主として入城したのは1608年のことです。「築城の名手」として誉れ高い高虎公は、関ヶ原の前哨戦となった安濃津籠城戦で荒れ果てたまちの復興に取り組み、その卓越したビジョンで藤堂藩を繁栄へと導きました。

城下には伊勢街道を引き込み宿場町として地域経済を発展させます。さらには上野と津を直接結ぶ伊賀街道を整備することで、それまで東海道を經由していた上方からの物資の流れを海運で江戸にもつなげる津に呼び込みました。藤堂家は高虎公から12代、260年にわたってこの水陸の要地を守り抜き、幕末には「天下の文藩」と称賛されるほど水準の高くにづくりが実現されたのです。

お伊勢詣での人々や津観音への参拝客でにぎわう城下町の一角、旧伊勢街道沿いの宿屋町で、紙平呉服店の分家である履物店「ダルマ屋のやっちゃん」と呼ばれ、地域に見守られて育った私は、まさに高虎公のくにづくりの恩恵にあずかっ

てきたといえましょう。

大門、立町から宿屋、地頭領、分部町と続く観音さんの門前町で開催され大賑わいの夏の夜店。私はものごころついたころから店先に座り込み、夜に履物をおろすと縁起が悪いからと売り物の下駄裏をマッチの火であぶったり、買い物客へのサービスの金魚すくい用モナカを串に突き刺したりと、お手伝いらしきことをしていました。住居表示が東丸之内に変更された当初は、子どもごころに「ここは宿屋町やのに……」と、自分の住む町のような気がしなかったことを覚えています。

民衆が安心して暮らせる天下泰平の世の実現のため、生涯をまさに東奔西走して活躍した高虎公。そのあまたあるゆかりの地を結び、交流を深める「高虎サミット」が1998年以来、各都市の持ち回りで開催されています。9回目に当たる今年は11月5日(土)「新津市誕生10周年」を記念して津で開催される運びとなりました。

藤堂御宗家第15代藤堂高正様にご臨席を賜り、茶道文化研究者の深谷信子さんのご講演で、小堀遠州(高虎公の養女の婿)の人脈を通して茶の湯も嗜む文化人としての高虎公の姿に迫ります。その後のパネルディスカッションに登壇するのは、高虎一代記の小説『下天を謀る』の直木賞作家、安部龍太郎さんです。

津市センターパレスホールの会場近くでは同時開催イベントとして「高虎楽座」や「農林水産まつり」もお楽しみいただけます。ぜひ、お出かけください。

「TV版市長コラム」では、前葉市長がこのテーマについて語ります



津市長コラム

検索

市長の活動日記から

✓ リオ五輪銀メダル獲得・五輪4大会連続メダル獲得の偉業達成を顕彰…9月5日



サオリーナ内に、顕彰コーナー「サオリウム」の創設を表明しました。吉田選手の栄光の軌跡を体感し、勇気・元気・高い志を授かることのできる新たなパワースポットが誕生します。

✓ 新津市誕生10周年記念特別展覧会「過去から未来へ～津のあゆみ～」(三重県総合博物館)…9月17日
MieMuと県内市町との初共催となる交流展示を開催。津の歴史文化の変遷の展望が未来への新たな発見となることを願い、古代から新・津市誕生に至る文化財480点を公開しました。



✓ 北勢・中勢地域の「ものづくり」を支える社会基盤の現状と未来を考えるシンポジウム(鈴鹿市文化会館)…9月17日



鈴鹿・四日市・津の3市長と関係者とが意見交換しました。中勢・北勢バイパスなど社会基盤の整備による拠点間のネットワーク強化で、生活利便性の向上と地域の発展を目指します。

「市長活動日記」は津市ホームページでご覧になれます

津市長活動日記

検索